

授業科目名	舞台芸術基礎実習	担当教員	杉山 至 尾西 教彰 児玉 北斗 木田真理子 石井 路子 山内 健司 近藤のぞみ 田上 豊 河村 竜也 岡元ひかる
必修の区分	選択		
単位数	2 単位		
授業の方法	実習		
開講年次	1年第3クオーター		
講義内容	理論の講義やコミュニケーション系の演習、各種ワークショップ演習の学びを、舞台芸術作品の実際の創作活動を通して、応用ないし検証する。プロの演出家やスタッフの指導のもと学生はキャストやダンサー・パフォーマーとして舞台に立ち、制作や舞台美術・照明・音響といったスタッフワークを担うことで、舞台芸術についての体験的学習を通して技術と知識を包括的に習得していく。		
到達目標	1.関連する講義や演習での学びを応用することができる。 2.またそれらを実践感覚をもって検証(反省)することができる。 3.キャスト、ダンサー、パフォーマーの意識、スタッフワークの方法を実際の上演を通して、運営や環境面から見直し、広げ、深めることができる。		
授業計画	舞台芸術実習 A,B,C,D と展開していく科目の基礎に位置付けられる。舞台芸術実習にて上演する作品を創作するための主に劇場技術スタッフの基礎的な事柄について実習と簡単な創作を通して体験・学習する。 各スタッフワークの授業はオムニバスで展開するため、授業スケジュールは担当講師との相談で決定する。内容は以下。 1/授業概要説明ガイダンスとスタッフワーク 1 舞台美術、大道具、劇場 1 2/ スタッフワーク 2 舞台美術、大道具、劇場 2 3/スタッフワーク 3 舞台照明 1 4/スタッフワーク 4 舞台照明 2 5/スタッフワーク 5 舞台音響 1 6/スタッフワーク 6 舞台音響 2 7/スタッフワーク 7 舞台監督 1 および演出 1 8/スタッフワーク 8 舞台監督 2 9/スタッフワーク 9 舞台衣装 10/スタッフワーク 10 舞台映像 11/スタッフワーク 11 舞台制作 1 12/スタッフワーク 12 舞台制作 2		
事前・事後学習	授業内で指示		
テキスト			
参考文献	『演劇入門』、平田 オリザ著		
成績評価の基準	授業への取り組み（実習報告書、実習完了報告書含む）（100%）		

履修上の注意 履修要件	
実践的教育	芸術文化分野の実務経験を持つ教員・実習指導者が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。
備考欄	定員超過の場合は志望理由等をもとに選考します。 動きやすい格好で参加のこと